

北里大学病院・北里大学東病院(旧)を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	後期高齢者術後再建腸管例における経乳頭的胆管結石治療の検(B21-253)
当院の研究責任者 (所属・職位)	北里大学病院 消化器内科 講師 岩井知久
他の研究機関および 各施設の研究責任者	ありません。
本研究の概要・背景・ 目的	近年、バルーン小腸鏡が出現し胃癌術後などの腸管再建患者における内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)が可能になりました。さらに、Short type single bloon endoscope(SBE)バルーン小腸鏡の開発以来、使用できる処置具の制限がなくなり、処置の幅が広がっています。このため、術後再建腸管例の胆管結石も従来は外科的治療や経皮的治療が選択されてきましたが、現在は内視鏡治療が可能となっております。しかし主乳頭への到達困難な症例や、また胆管へのアプローチやその後の処置などは難易度が高く、治療困難結石と位置付けられ、その施行は高度医療機関に限定されているのが現状です。なお、本邦では高齢化社会の進行に伴い高齢者術後再建腸管例の胆管結石が増加傾向にあります。しかし、その内視鏡治療における安全性や治療成績に関する報告は多くありません。そこで今回我々は、過去に当院で術後再建腸管を有する総胆管結石の治療を行った患者様を対象に、85歳以上の群と85歳未満の群で比較を行い、85歳以上の群での内視鏡治療の有用性と安全性を明らかにすることを目的としました。
調査データ 該当期間	2017年1月1日から2022年3月31日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さま	上記の期間内に北里大学病院で術後再建腸管に対し小腸鏡下でのERCPを施行された方のうち、乳頭が温存されている状態で総胆管結石の治療を行った患者様を対象としております。
研究の方法 (使用する試料等)	2017年1月1日から2022年3月31日までの電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	ありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。また本研究の遂行のための費用は消化器内科学医局研究費を使用します。利益相反については北里大学利益相反委員会で審査を受け、適切に管理されます。

お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>所属・職位: 消化器内科・助教 コウガミタロウ 担 当 者: 鴻上 太郎 電 話: 042-778-8111</p>
備 考	